別紙1　令和５～７年度普及活動成果

持続的な柿産地の構築支援

要約

天理市萱生町の歴史ある刀根早生産地は高齢化と作業負担増により縮小傾向が懸念されていた。そこで、産地内でGI認証取得を掲げるとともに、作業省力化技術の導入を図った。

・産地内でバラバラだった生産者が新組織を立ち上げ、「かよの柿」という名称を使用して、GI認証を目指すことで合意。生産工程管理を整備できた。

・ロボット草刈機や摘蕾作業を軽減する切返し剪定技術の導入実証を行った結果、導入を決断する生産者が生まれた。

今後は、GI認証取得を進めるとともに、実証試験を繰り返し産地への省力化技術の浸透により産地の維持発展を目指す。

現状(背景)と課題

- 担い手の減少による産地の縮小
- 規模縮小の主要因は「高齢化」と「栽培管理の負担」
- 産地としての認知度が低い

目標

- 天理産の柿のGI認証にかかる生産工程管理体制の確立　１件
- 認証取得申請　１件
- 品質向上・労働負担軽減技術の導入件数　１件

活動内容

・「GI認証」の意義を生産者に周知し、専門家を招いたブランディング相談会を実施

・天理市萱生町、成願寺町、中山町及び竹之内町の全ての出荷組合と個人出荷者の合意形成を図り、新組織を設立して統一ブランド化を推進

・摘蕾数調整による省力化を目的とした「芽の切り返し技術」の講習会を開催し、実証圃を設置

・「ロボット草刈り機」を複数圃場で試験し、課題を解決したうえで実用導入を進め、負担軽減を図った

成果

- 全出荷組織・個人出荷者による新組織「かよの柿生産者の会」を設立
- 生産工程管理体制を整備し、地域全体での目揃え会を実施。
- 「かよの柿」のイベントにてプロモーションを開始。
- 「芽の切り返し技術」を先行導入し、今後の省力化実証に向けた試験を実施中。
- 「ロボット草刈り機」実証圃場を設置し、トラブルに対応して整備を行うことで、実証した農家が導入を決意。

北部農業振興事務所農業振興課
担当：農産物ブランド推進第１係
枚本　哲史

みどりの食料システム戦略緊急対策交付金
（グリーンな栽培体系サポート事業）

普及活動のポイント

・**担い手の納得を得る“見える化”**：技術導入にあたって問題が生じたときに生産者とともに考えて一緒に行動した点。普及員が自分事として産地の課題を捉える姿勢を見せた。
・**地域資源の再評価**：生産者が課題に感じながらもやり方がわからないマーケティングやブランドの構築に関して、専門家の派遣なども交えながら生産者の話を聞き、「かよの柿」の価値を見いだすきっかけを作った。
・**普及活動の“つなぐ力”**：GI認証という大きな旗を掲げて、バラバラの生産者や組合をバラバラだった動きを一つの方向にまとめた。

対象の変化

・同じ地域で栽培をしながら、話合う機会がなかった生産者同士が集まる機会をもうけることで、自分の柿経営だけでなく、産地をどうするかを考えるようになった。
・新しい技術の導入に関して、興味を持つようになり、講習会の内容の提案等の要望を行うようになった。

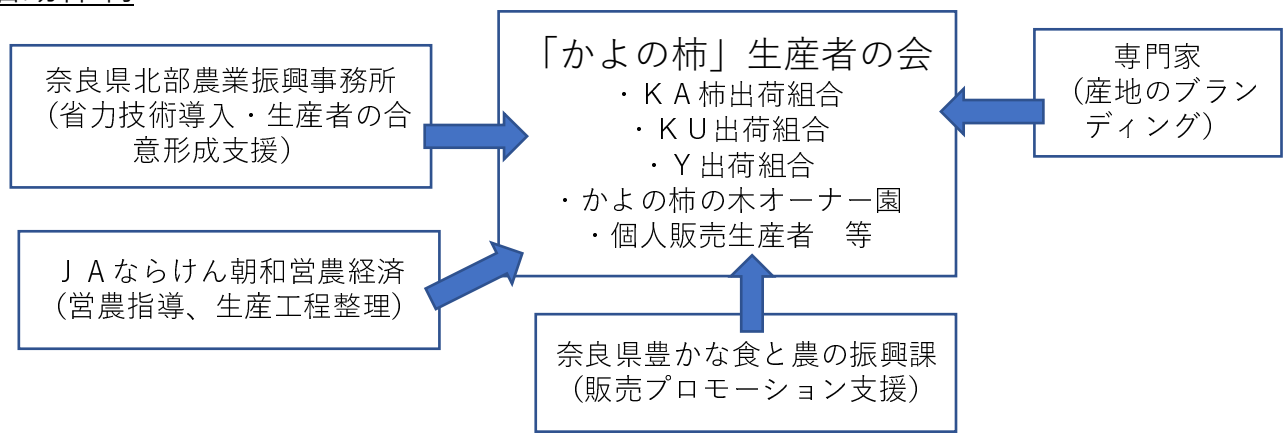
対象者からのコメント

・同じ地域にいても出荷や生産、産地のこれからの話はできない状 態であった生産者や出荷団体が「かよの柿生産者の会」をきっかけに 話し合う機会が生まれたことは重要な一歩だと思う。

これからの活動ビジョン

- 申請後の有識者等の指摘事項に応えるのは、ＧＩ認証における最も困難な過程の 一つといわれるので、重点的にＧＩ認証へのサポートを行う。
- 産地は「山の辺の道」、「刀根早生発祥の地」や「かよの柿のオーナー園」等の要素に加えて、「かよの柿」という特長を加えたが、ほかにも「バイオ炭」や「スマート農業」などの要素を産地に入れ、組み合わせていくことで課題解決に務める。

活動体制



用語解説

・ＧＩ認証
　その地域ならではの自然、文化などの中で育まれてきた品質、評価等の特性を持つ農産物の名称を地域の知的財産として認証する制度

・芽の切り返し技術
　剪定で残した枝の先端を切り詰めることで、蕾になる花芽の数を減らす技術